

(10) エリア⑩：文献上テフラが薄く、崩壊規模が小さく、崩壊密度は中程度

---

崩壊規模と平面形状：中程度

崩壊上端の位置：上部遷急線

崩壊の縦横断形状：凸形直線斜面、凸形尾根型斜面

崩壊したテフラ層：Ta-d

テフラの厚さ：0.5m未満

斜面傾斜：30～45° 程度

崩壊面の地質：新第三紀砂岩頁岩互層

溪床状況：土砂や流木が滞留

土砂流出状況：流動性は見られず、滞留する土砂で土砂ダムを形成

---

本エリアでは斜面傾斜が全体的に 35° 以上と急傾斜であり、新第三紀頁岩類の切り立った崖などが目立つ。崩壊はいずれも表層崩壊が多く、崩積土についても頁岩礫を主体とする砂礫となる。テフラは表層に 50cm 厚程度の Ta-d が認められるが、比較的傾斜の緩い谷頭で数か所崩壊している程度である。支流合流部では流木と土砂による土砂ダムが複数見られる。また、本エリアは、新規に発生した岩盤崩壊が多くみられる。



(左上)谷壁斜面の表層崩壊頭部

(右上)表層崩壊が主体の溪流全景

(左下)中規模な表層崩壊

(右下)尾根沿いに形成された二重稜線と陥没帯

写真 2.10 現地状況

(11) エリア⑪：文献上 Ta-d が厚く、崩壊規模・密度が高い

---

崩壊規模と平面形状：大規模、樹枝状

崩壊上端の位置：一次谷の下部谷壁斜面や谷頭付近の上部谷壁斜面

崩壊の縦横断形状：凹形谷型斜面、等斉尾根型斜面

崩壊したテフラ層：Ta-d、En-a二次堆積物

テフラの厚さ：Ta-d 0.6m、Ta-d・En-a二次堆積物0.3～1.0m

斜面傾斜：上部20～30°、下部40°以上

崩壊面の地質：新第三紀砂岩頁岩互層、Ta-d

溪床状況：流木は少なく土砂が滞留

土砂流出状況：流動は中程度だが土砂ダムを複数箇所で形成

---

本エリアでは溪岸が約 5～20m 程度の谷壁と、その上部の急傾斜と尾根周辺緩斜面からなる。中腹部では袋型の凹地形をなす崩壊が多く、いずれも Ta-d・En-a 二次崩壊堆積物からなる埋没谷崩壊である。また基岩の急傾斜上部の緩斜面や谷頭付近は傾斜が緩く、Ta-d によるテフラすべりがみられる。表層崩壊や二次堆積物の崩壊と、上部緩斜面のテフラすべりの複合的な崩壊斜面がいくつか確認された。



(左上)崩壊した谷頭緩斜面と下部谷壁

(右上)上部にテフラの崩壊を伴う凹地状の崩壊

(左下)崩壊地上部の狭いテフラの崩壊

(右下)崩壊地中部の風化基岩露頭

写真 2.11 現地状況

(12) エリア⑫：崩壊規模・密度が低く、稜線をまたぐコントラストがみられる

---

崩壊規模と平面形状：小規模、樹枝状

崩壊上端の位置：上部遷急線、谷頭付近の緩斜面

崩壊の縦横断形状：凹形谷型斜面

崩壊したテフラ層：Ta-d

テフラの厚さ：0.5m程度

斜面傾斜：上部 約25°、中腹約40°

崩壊面の地質：新第三紀頁岩

溪床状況：一次～二次谷に土砂や流木が堆積

土砂流出状況：溪流に流下するが、河床幅が広いとため溪流内に滞留

---

テフラの崩壊は、一次谷の新第三紀基盤岩の下部遷急線の上部の緩斜面で Ta-d の崩壊が多発している。テフラの崩壊のほとんどは、谷頭の谷型斜面で発生している。谷頭の谷型地形が小規模であるため、崩壊規模も小さくなっている。また、一次谷の下部遷急線の急な谷壁で土砂崩壊が連続する。



(左上)谷頭緩斜面のテフラの崩壊

(右上)流出土砂による溪流の閉塞状況

(左下)滑落崖に見られるテフラ層

写真 2.12 現地状況